

# 希



# い

育成会だより

第90号平成30年7月 発行

東大阪市手をつなぐ育成会

(年 3回)

(題字 吉岡名誉顧問)

## 総会を終えて

坂本 ヒロ子

5月30日、平成30年度総会を開催しました。

野田義和市長、西田和彦市議会議長からご挨拶をいただいた後、議事に移り議案にそって審議が行なわれ、すべて議決しました。ありがとうございました。

障害者差別解消法が施行され、3年目を迎えます。親の会として設立当初からの願い「知的障害のある人の理解」があります。

障害者差別事例の分析、検証をするとともに全国手をつなぐ育成会連合会、大阪手をつなぐ育成会、東大阪市と協力しながら住みよい町になるよう活動していきたいと思ひます。

なお、今回資料として大阪手をつなぐ育成会（生活支援部会）が作成した『心をつなぐきろく（改訂版）』を添付させていただきました。制度も当時より随分変わったこと、前回の不備をおぎなうこと、より記入しやすいものにと（改訂版）が作成されました。それに記入し、以前の「心をつなぐきろく」ファイルに加えて保存していただければと思ひます。親が亡くなると、たちまち困るのは本人であり、他の家族であり、支援者です。親亡き後のことは、親あるうちにです。ぜひご活用下さい。

また6月20日の役員会にて「東大阪市における移動支援のQ&A」を会員の皆さんへ配布をお願いしました。本来この資料は、総会資料として添付する予定でしたが、「心をつなぐきろく」に変更しました。この「東大阪市における移動支援のQ&A」は29年10月東大阪市自立支援協議会運営委員会にて示されたものです。その内容は、正しく移動支援を利用するのに必要な事項だけに、一日も早く皆様のお手元と思ひ配布させていただきました。ご不明な点は、契約している移動支援の事業所にお問い合わせ下さい。

移動支援は市町村の地域生活支援事業の一つです。各市町村によって異なります。

障害のある人の生活を豊かにするには余暇は大切ですし、その一役をになう移動支援のガイドヘルパーのはたす役割は重要です。利用されている方、利用しようと思ひておられる方、いま一度目を通してご確認下さい。

## 平成30年度 リーダー養成研修

【主催】：近畿手をつなぐ育成会連絡協議会

【日時】：平成30年4月20日

【会場】：大阪手をつなぐ育成会 つなgoodホール

【テーマ】：「全国手をつなぐ育成会連合会は、今、そして・・・」

全国手をつなぐ育成会連合会の多彩な活動状況を理解し、今後の府県市町村育成会の展開につなげる機会になることと、参加者の交流の機会となることを目的に開催されました。

### (1)全国手をつなぐ育成会連合会の概況

これからの育成会活動の方向性について 全育連総括 田中正博氏より、お話がありました。(要旨は下記の通りです)

#### ○ 育成会の理念は

- ・障がいのある人たち(我が子)の幸せを実現するための活動。
- ・その理念実現のためにフットワーク良く、柔軟に新しいアイデアで対応する体制必要。(若い親のニーズに気づき、新たなアイデアで対応する体制を作る事が大切)

#### ○ 最近の社会状況

##### 最近の15年余りの移り変わり

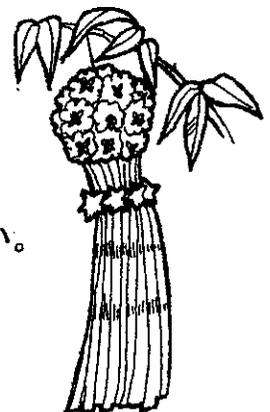
- ・社会福祉の基礎構造改革や経済不況、少子高齢化ならびに過疎化等の社会問題の多様化、複雑化、生活や福祉を取り巻く現状変化。  
⇒親の会の環境や様子も変化してきた。
- ・福祉サービスが整備され、情報化社会が拡がり人とのつながりが薄くなって、組織所属の依存心が薄れる。
- ・若い人が育成会に必要性和魅力を感じない。
- ・もしくは経済的に厳しく活動が困難。

#### ○ 時代の流れの中での育成会

- ・歴史と実績をなしてきた組織が急速な時代の流れに対応できずにいる。
- ・これまでのやり方やあり方を続けようとする傾向にあり、結果として地域のニーズとの間にギャップが生じてきている。  
⇒これが今の時代であり育成会でもある。
- ・この事は育成会だけに留まらず、歴史と実績をなしてきた組織はどこもそんな局面にある。

#### ○ 市町村育成会活動の停滞

- ・若い親の入会が無い。  
育成会に入ったら何をしてくれるのか。  
役を持たされたり、動員されるのがいやだ。
- ・会員が高齢化し減ってきた。  
子どもはG・H(施設入所)で、親は高齢で活動に出て来れない。
- ・役員を代わってくれる人が無い。  
若い会員は共働き。  
障害の子と高齢の親をかかえて活動できない。



## ○ 組織の老朽化はどこでもある

### ⇒対策は3つ

老朽化を受け入れる・・・→消滅に向かう。

リセットする・・・・・・→世代交代する。

改革する・・・・・・→解散し新たに立ち上げる。



まず、このままで良いかと気づくこと  
気づいたら立ちあがること  
それに共感したら支え合うこと  
そして決断すること



戦略的に考えて、今こそ前に進めようと話されました。

その後、国際交流委員会、権利擁護委員会、本人活動支援委員会の状況、全国大会(京都)の準備の状況について各担当育成会からありました。

参加して下さった会員の方からの感想をご紹介します。

田中総括のお話で「2022年には、次世代体制になる様、若い会員の確保が大切で、そのためには、私達自身が変化に柔軟でないといけない。」というお話がありました。共働きが多い中、ネット・SNSの活用が大事だと思っていると、近くに座っておられた奈良の60代後半の方がスマホで、色んな事をどんどん検索されていて、若い人につながるにはこうするしかないのでは?と思いました。

佐古氏の本人活動のお話の中

「本人活動」＝「軽い障害の人」と思っていると『わたしの設計図』の説明の時、どんなに重度の方もその場に居て、話して、雰囲気だけでも分かり合う事が大事とおっしゃいました。先日、息子が病気の説明の時、A医師が私だけでなく息子にも説明されました。どこまで、理解したのか分かりませんが、事の重大さに気づいた様で、本人も留意するようになりました。『その場に居る事の大事さ』に気づいた母でした。(K)

『リーダー』という言葉に少し違和感を覚えますが、テーマ「全国手をつなぐ育成会連合会は、今、そして・・・」の話しを聞いてみたくて参加しました。活動が停滞化してきた事への対策として連合会は、2018年は正会員・各支部の実態と今後の見通しの把握、2019年には、次世代体制の強化のために具体的な提案がなされています。これからも出される提案を考えていきたいと思いました。(H)

2年に1回開催の「アジア知的障害会議」。まだまだ親が中心の家族構成されている「家制度」が残っているアジア諸国では、日本の本人活動がお手本になっていると現状報告を聞くことが出来てとても有意義でした。(U)

今回研修を受けて『何のための、誰のための保護者会活動か』等あらためて考える機会になりました。本人活動支援委員会では、「わたしの設計図」の説明があり、活かしていない自分に「喝」を入れなければと思いました。(U)

6月度 レク部会

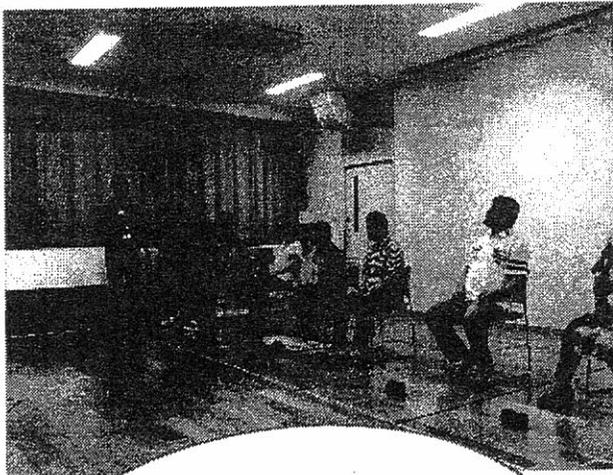
“ ボッチャで<sup>からだ</sup>体を動かそう !! ”

6月24日(日)レピラで<sup>たの</sup>ボッチャを楽しみました。

『ボッチャ』はイタリア語で<sup>い</sup>ボールという<sup>い</sup>意味だそうです。<sup>あか</sup>赤と<sup>あお</sup>青の<sup>ち</sup>チームに<sup>わ</sup>分かります。ひとり<sup>こ</sup>2個ずつ<sup>ほ</sup>ボールを持って、<sup>しろ</sup>まとの白い<sup>ほ</sup>ボールに<sup>ちか</sup>近づけるように<sup>ころ</sup>転がします。まとの<sup>しろ</sup>白いボールに<sup>ちか</sup>近い<sup>か</sup>ボールの数で<sup>しょうぶ</sup>勝負が<sup>き</sup>決まります。

みなさんの<sup>かんそう</sup>感想

- \*ボッチャした。
- \*おやつもらってうれしかった
- \*たのしかった。
- \*わたしは おやつを もらってうれしかった。
- \*おもしろかった。むずかしかった。



回を重ねていくたびに  
ボッチャへの<sup>り</sup>理解が  
みられて<sup>じょうず</sup>上手になっ  
ていますね。(岡林さん)



\* レク部会 今後の予定です。

7/29 (日) 枝元なほみクッキング! 10時~14時

8/14 (火) 牛滝温泉で遊ぼう!バス旅行 9時30分~16時

9/ 2 (日) ラダーエクササイズ 13時30分~15時